

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

宇都宮大学大学院 教職大学院案内

教育学研究科 教育実践高度化専攻

確かな指導理論と優れた
実践力・応用力を育むために

DIVISION OF
PROFESSIONAL
TEACHER
EDUCATION
2019 GUIDE

1 教職大学院とは？

学校現場の教育課題を研究する大学院

学校現場の教育活動を課題とし、学校現場と大学を行き来しながら実践研究を進めます。そこでの研究成果を学校現場や地域に還元しながら教員としての資質・能力の向上を目指す、実践指向型の大学院です。宇都宮大学では、平成27年4月に開設しました。



2 宇都宮大学 教職大学院の特徴

1 3つの力を育成します

本教職大学院では、学校改革・授業改善のリーダーとなるべき人材を育成します。そのために、現職院生も学卒院生も、それぞれに次のような力を獲得することができます。



学校改革力

「学校改革力」とは、学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進する力量や、学校内外と協働して課題解決に取り組む力量などで構成されます。

授業力

「授業力」は、授業研究を組織し、リードできる力量や、すべての学習者の深い学びを保障することのできる力量などで構成されます。

個への対応力

「個への対応力」とは、個に応じる特別支援教育の考え方を学習指導や学級・学校経営に生かす力量であり、学校改革力、授業力を下支えする力となります。

2 学校現場に密着した 実践研究を進めます

本教職大学院の中核は、「教育実践プロジェクト」です。大学院生と大学教員が1つのチームとなり連携協力実習校(在籍校も可)の課題と照合して自らの研究課題として取り上げ、学校現場と連

携しながら課題解決を進めることで、学校現場に生きる実践力を身に付けます。現職院生は原則として2年間同じ学校で行うことで、より深い課題解決を目指します。テーマの例を以下に掲げます。

1年次の学卒院生は、附属学校で長期インターンシップを行います。2年次は現職院生と一緒にプロジェクトに参加します。

学校改革力

- 地域との関わりのよさを活かした授業づくり
- 小中学校9年間でふまえた授業づくりを目指して
- 事実をもとに省察する教師集団の形成
- 授業のデザインとリフレクションを中心とした協働的な授業研究
- 同僚性の向上を目指した校内授業研究の在り方
- 組織的社会化を促す教員の学びと職場コミュニケーション

授業力

- 算数の授業における具体物に関する考察
- 学習内容と既有知識の結びつきを促進させる協同学習の実践
- 子どもが安心して学べる学習環境づくり
- 小中の学びをつなぐ美術教育の実践
- 中学校数学科における論理的思考力をはぐくむ指導の在り方
- 道徳授業デザインを通じた授業力向上を目指して
- 小学校英語における教師と児童のインタラクション

個への対応力

- 「聞く姿」から考える社会性伸長のための支援について
- 中学校数学における説明する能力の向上に関する研究
- 三角ロジックを使った根拠をもった主張に関する研究
- 個のニーズに応じた全校支援体制の在り方
- 子どもの自己肯定感を育む授業とは

平成29年度修了生の成果報告書より作成

3 最新の理論や指導方法を幅広く学べます

共通科目は、現代的な教育課題とその課題に直結する教育理論と実践的なアプローチを網羅的に学びます。

選択科目(分野別選択科目)は、大学院生の関

心に応じて受講します。現職院生は個人の関心に応じて、3つの科目群(学校改革、授業改善、個に応じた支援)から、1つの科目群を選択し、その群を中心に履修します。学卒院生は、3つの科目群の基礎をバランスよく学びます。

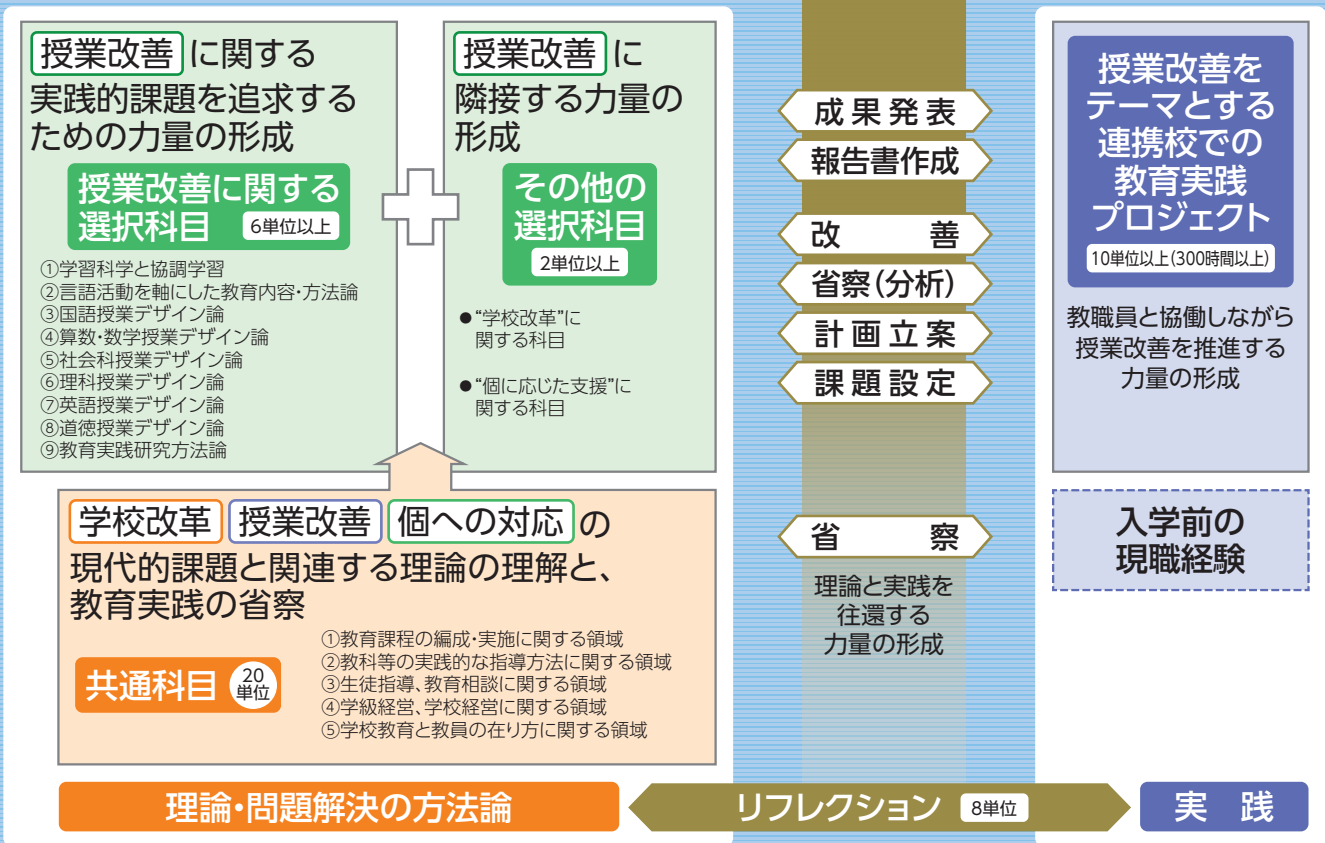
4 理論と実践をていねいに つないでいきます

教育理論と学校現場での活動(これまでの実践や教育実践プロジェクト)をつなぐための科目

「リフレクション」を設定しています。年間を通して、現場での活動を省察し、次の活動に生かすことを繰り返し、その成果を実践報告書としてまとめます(修士論文は作成しません)。

*「授業力」を自ら伸長すべき能力として設定した現職院生のカリキュラムイメージです。

高度の専門的知識に基づく実践的指導力の修得



院生の声



現職院生(平成28年度入学)
仁平 由美
在籍校:宇都宮市立平石中央小学校

学校が抱える問題が多様化・複雑化する中、これまでの自分の経験だけでは限界を感じ、原点に戻って考えたいと思ったことが入学のきっかけでした。大学院の授業では、学校、授業、学習の意味を問い直す機会が与えられ、「学校改革力」「授業力」「個への対応力」の3つの力がつながり、より広い視野から教育というものを考えることができるようになりました。とくに私は「教員の学び」や「若手教員の育成」など「教師教育」という分野に関心をもち研究を進め、「教育実践プロジェクト」では勤務校とは異なる学校組織の中で、現場の先生とともに学校改善に取り組んできました。現職院生と学卒院生がかかわり合って学ぶ教職大学院自体が「教師教育」の場です。学部生とともに学ばせみや授業に参加したり、「輪読会」や「自主研修会」など、院生が自主的に学ぶ場を主催したりもしました。今後はスクールリーダーとして、学んだことを現場へ還元していきたいと思っています。

授業科目と履修方法

1 3つの力を育てる授業科目

3つの力を育成するために、共通科目、分野別選択科目、教育実践プロジェクト、リフレクションを設定します。必要修得単位数は46単位です。それぞれの指導は、研究者だけでなく実務家教員(教員等経験者)と一緒にを行います。



共通科目 必修：20単位

授業科目

- 1 教育課程の編成・実施に関する領域**
 - ① カリキュラム開発の実践と課題
 - ② 個に応じた指導の実践と評価
- 2 教科等の実践的な指導方法に関する領域**
 - ③ 教材開発と教育方法の実践と課題
 - ④ 授業研究の運営と課題
- 3 生徒指導、教育相談に関する領域**
 - ⑤ 生徒指導の実践と課題
 - ⑥ 特別支援教育の実践と課題
- 4 学級経営、学校経営に関する領域**
 - ⑦ 学校改革の実践と課題
 - ⑧ 学級経営の実践と課題
- 5 学校教育と教員の在り方に関する領域**
 - ⑨ 学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処
 - ⑩ 現代教師論

分野別選択科目 選択：8単位以上

授業科目

- 1 学校改革に関する科目群**
 - ① 集団づくり論 ※
 - ② 学校評価の開発実践
 - ③ 栃木の学校改革
 - ④ 学校と地域の連携に関する実践と課題
 - ⑤ 学校における「管理」実践とその課題
- 3 個に応じた支援に関する科目群**
 - ① 授業における個のとらえ方と対応 ※
 - ② 特別支援教育コーディネーターの役割と課題
 - ③ 特別な支援が必要な子どもへの理解と対応
 - ④ 障害の重い子どもへの教育の在り方

- 2 授業改善に関する科目群**
 - ① 授業実践基礎 ※
 - ② 学習科学と協調学習
 - ③ 言語活動を軸にした教育内容・方法論
 - ④ 国語授業デザイン論
 - ⑤ 算数・数学授業デザイン論
 - ⑥ 社会科授業デザイン論
 - ⑦ 理科授業デザイン論
 - ⑧ 英語授業デザイン論
 - ⑨ 道徳授業デザイン論
 - ⑩ 教育実践研究方法論

● 現職院生は、選択した科目群から6単位以上を履修 ● 学卒院生は、※科目を必ず履修

実習科目 必修：10単位(5単位×2、計300時間以上)

授業科目

- 教育実践プロジェクトⅠ・ⅡA：ⅡB
[Ⅰ・ⅡA：現職院生1～2年次、ⅡB：学卒院生2年次]
- 長期インターンシップ[学卒院生1年次]

リフレクション 必修：8単位(通年4単位×2)

授業科目

- リフレクションⅠ・Ⅱ
教育実践プロジェクトの計画、省察、報告書作成等の実施

※()内は単位数

※()内は単位数

2 履修スケジュールと時間割例

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|-------------------------------|----|----|----|----|----|---------------------|---------|-----|----|----|----|
| 1 年次 | 共通科目 | | | | | | | 分野別選択科目 | | | | |
| | 分野別選択科目 | | | | | | 実習科目(週2日程度・150時間以上) | | | | | |
| | リフレクション(活動計画、活動の分析・考察、報告書の執筆) | | | | | | | | | | | |
| | 共通科目 | | | | | | | 分野別選択科目 | | | | |
| 2 年次 | 分野別選択科目 | | | | | | 実習科目(週2日程度・150時間以上) | | | | | |
| | リフレクション(活動計画、活動の分析・考察、報告書の執筆) | | | | | | | | | | | |

・教育実践プロジェクトは9月から12月を予定しておりますが、その他の期間も連携協力校とゆるやかに連携します。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|----|------|-----------------|-----------------|-----------|--------------|---------------|
| 前期 | 1~2限 | 授業研究の運営と課題 | 授業における個のとらえ方と対応 | 授業実践基礎 | | 個に応じた指導の実際と評価 |
| | 3~4限 | 学級経営の実際と課題 | 生徒指導の実際と課題 | 集団づくり論 | | 学校改革の実際と課題 |
| | 5~6限 | カリキュラム開発の実際と課題 | | 学習科学と協調学習 | 現代教師論 | リフレクション |
| | 7~8限 | 教材開発と教育方法の実際と課題 | | | 特別支援教育の実際と課題 | リフレクション |
| 後期 | 1~2限 | 実践プロジェクト | | | 実践プロジェクト | |
| | 3~4限 | 実践プロジェクト | | | 実践プロジェクト | 道徳授業デザイン論 |
| | 5~6限 | 実践プロジェクト | | | 実践プロジェクト | リフレクション |
| | 7~8限 | 実践プロジェクト | | | 実践プロジェクト | リフレクション |

[個への対応力]を重視した時間割の例(科目名は平成29年度のもの)

院生の声



現職院生(平成29年度入学)
永 嶋 政 宏
在籍校:宇都宮市立白沢小学校

教職大学院での学びは、教職経験を10数年積んできた自分にとっても、非常に刺激的なものです。その刺激が、10数年積んできた経験によって固まり、柔軟性を失っていた概念を解きほぐしたように感じます。変化の激しい予測困難な時代において、子ども達一人一人が未来の作り手となれるよう、私たち教師が子ども達に未来を切り拓く力を身につけさせなければなりません。教職大学院で、自らが学ぶ経験を通して、身をもってこれからの時代に必要な力が何であるのかを実感しています。

「学校改革力」「授業力」「個への対応力」の3つの視点から複合的に学び、じっくりと考えること。そして校種や現職・学卒の枠を越えて、他の院生と語り合うことで、これまでの自分自身の取組みについて深く省察することができそうです。学びの機会を得て1年。残りの1年で更に学びに広がり深まりを得られることを楽しみにしています。



学卒院生(平成28年度入学)
荒 井 雄 貴
在籍校:宇都宮大学教育学部卒業

目指すべきよい授業を見つけないという思いで学んだ2年間でした。教職大学院で得ることのできる貴重な経験を通して、目の前の子どもにとってのよい授業、自分ができるよい授業というものがあることが少しずつわかってきました。教職大学院の授業では、現職院生と学卒院生の仲間と共に学びを深めることができました。授業観察では、子どもの学びから授業を観るということを知り、子どもの学びを捉えようと努めました。授業実践では、自分の研究でわかったことを基に授業を考え、実践し、考察することができました。

私は、研究テーマを「中学校数学における説明する能力の向上に関する研究」と設定し、理論や実践を基に研究テーマを突き詰めることができました。私自身が学ぶ楽しさを実感できました。今後も自信を持つことができた部分から広げ、教師としての専門性を高めていきたいです。そして、子どもが学ぶことのできる環境をつくり、子どもと共に学び続けることのできる教師を目指したいです。



学卒院生(平成29年度入学)
田 村 光
在籍校:実践女子大学・文学部卒業

最近の私は、良い意味で頭を抱えることが多くなったように思います。多くの理論や実践に触れ、常に仲間や先生方と語り合ってきた前期は、常に思考が飽和状態にありました。昇華しきれない学びにモヤモヤする気持ちをもちつつも、悩み考える中で徐々に、過去の経験や既習の知識と繋がるという実感を得てきました。後期の長期インターンシップは、一心不乱に臨んだ教育実習とは異なり、十分な省察の時間や、定期的に仲間と語り合う時間を設けられることで、常に課題をもち、その解決に努めることができました。また、授業参観、授業研究会、講話など、授業外での学びの場も多く提供してくださり、常に充実した学びのできる環境にあります。この一年間を振り返ると、学びたい気持ちが学びの可能性を無限にしてくれたことを強く感じます。次年度も仲間たちとの学びの中で、一層、「悩み、考え、学んでいく自分」になれることを期待します。

教職大学院の メリット

教職修士(専門職)の学位が取得できます。また、現有の一種免許状について、専修免許状を取得することが可能です。

現職院生にとって 優れた実践力・応用力を 備えることができます。

教職大学院は、長期にわたり学校現場と密接に関わることで、自らの活動を最新の指導理論から省察することで、現代的な教育課題に対する実践力・応用力が身に付きます。また、大学の講義では、教育実践のみならず、学校経営の視点を身に付けることができます。修了後は、理論と実践が融合し、学校や地域のリーダーとなって活躍することが期待できます。

学卒院生にとって 実践的な指導力・展開力を 備えることができます。

学部の教育実習で学んだことを教職大学院の長期インターンシップでさらに深め、学校現場ですぐに生かすことのできる実践的な指導力や授業の展開力を十分に身に付けることができます。また、現職教員と共に活動することで、幅広い年代と協働する力を身に付けることができます。

学校現場にとって 学校の課題解決への手が かりを得ることができます。

大学院生が、学校の課題を一緒に考え、また、大学教員も、実習と密接に関わりながら、学校に協力することにより、さまざまな視点からの検討や実践が可能になります。実習を通じた関わりだけでは十分な成果に結び付かないかもしれませんが、課題解決への手がかりを得ることに協力できます。また各連携協力校に対しても、必要であれば大学のサポートを継続します。

6 スタッフ

※専任教員は、実習科目・リフレクションを担当することができます。



専任教員 青柳 宏

専門分野 教育学・教育方法学

「授業」を創造するためには「対話」が必要です。また、「授業」を反省するためにも、「教育課程」を創造するためにも、「対話」が必要です。大学院での「学び」を一人一人が語り合う「本当の対話」の場にしたいと思っています。



専任准教授 小野瀬善行

専門分野 教育制度学・教師教育

公教育で重要な役割を果たす教員について、日本とアメリカの制度比較研究を進めています。教職大学院では、学校を取り巻く現実を見据え、これからの公教育や教員のあり方について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



専任教員 久保田善彦

専門分野 教育工学・理科教育・教科教育

学びには、浅い学びと深い学びがあります。すべての子どもが「深く」学ぶことのできる授業づくりを考えています。深く学ぶ手立てとして、協働学習やテクノロジー活用の研究も進めています。子どもの学びや授業づくりから、教師自身も深く学びましょう。



専任准教授 菊地 高夫

専門分野 国語教育・生徒指導

理論と実践をバランスよく学び、両者をつなぐことで、学校現場で役立つ教育実践力を身に付けられることが、本教職大学院の特徴の一つと言えます。皆さんの能動的で協働的な学びに関わらせていただきます。



専任准教授 司城紀代美

専門分野 特別支援教育・発達臨床心理学

専門は特別支援教育で、エピソードや教室談話といった質的なデータから子どもたちの姿をとらえる研究を進めています。多様な子どもたちとともに学ぶための授業づくり、学級づくりについて皆さんと一緒に探求していきたいと思っています。



専任講師 高久由紀子

専門分野 英語教育・学級経営

「英語で伝えようとする気持ちをもてる生徒」の育成をめざし、話題の共有(トピック選定)、発問、生徒への応答(follow-up)などを試行錯誤しながら実践に努めています。「わかる」「できる」そして「分かち合う楽しさ」のある授業作りを一緒に考えていきたいと思っています。



専任准教授 原田 浩司

専門分野 特別支援教育・発達障害・学校経営

発達障害を含む配慮すべき子どもたちの理解と対応が喫緊の課題になっています。これからの学校教育は共に学び育ち合う豊かな関係を築いていくことが求められているのです。実践と省察を往還しながら21世紀型の改革モデルを模索していきます。



専任教員 人見 久城

専門分野 理科教育学・カリキュラム開発

社会や時代の変化に対応した理科とはどのようなものなのでしょうか。理科の授業づくり、授業分析、教育課程の編成などに関心があります。理科の教師とは何を身に付け、何ができるようにすればよいのかを探究したいと思っています。



専任教員 日野 圭子

専門分野 数学教育学

算数・数学の授業における子どもたちの数学的意味の構成の過程に関心を持っています。子どもが持っている素朴ながらも豊かな知識やアイデアを生かしつつ、それをどう刺激し高めて行ったらよいか、先生方と一緒に考えていきたいと思っています。

募集概要

1 求める学生像

本教職大学院では、以下のような学生を求めます。

- 地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクール・リーダーになることを志向する現職教員
- 学部段階での資質能力を修得した者(教員免許保有者)の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る教員を志向する者

2 募集人数と選抜方法

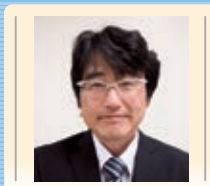
① 募集人数 15名(学部卒者5名程度・現職教員10名程度)

| | 受験者の区分 | 検査科目と配点 |
|------|--|-----------------------------|
| 学部卒者 | 4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みで、 教員免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者 | 「小論文：200点」と「口述試験：200点」 |
| 現職教員 | 現職教員(6年から20年程度の経験を有すること) 県教育委員会派遣現職教員等 | 「口述試験(「教育実践概要」の審査を含む)：400点」 |

* 選抜方法や募集日程の詳細は、宇都宮大学大学院教育学研究科 教育実践高度課専攻 学生募集要項をご覧ください。

3 学費

| | | |
|-------|--------------|---------------------------|
| ⑦ 入学料 | 282,000円 | 栃木県教育委員会派遣の方は入学料の半額を免除します |
| ⑧ 授業料 | 535,800円(年額) | |



専任講師 平塚 昭仁
専門分野 体育科教育・学級経営

学校現場で実践を重ねてきました。今、学校現場には様々な子供がいます。目の前の子供とどう向き合うか、実践を通しながら考えていきたいです。また、理論と実践が伴う教師としての力量を高めていければと思っています。



専任教授 松本 敏
専門分野 社会科教育・授業研究

環境教育や法教育など、公的分野の教育内容・方法を研究するとともに、児童生徒の学びの丁寧な観察から考える授業研究を進めてきました。そこから教師の同僚性を高めて学校改革につなげる道筋を現場と共に考えたいと思っています。



専任准教授 和井内良樹
専門分野 道徳教育

小学校教員として道徳授業研究に長年取り組んできました。道徳教科化が叫ばれる中、改めて道徳教育を研究する意義は大きいと思います。子どもを豊かに育む道徳授業の魅力や指導法などについて考えていきたいと思います。



特任准教授 コーディネーター 石嶋 和夫
専門分野 学校経営学・カリキュラム学

私はコーディネーターとして、教職大学院生がお世話になる連携協力実習校だけでなく、連携協力校に御応募いただいた各学校と宇大教職大学院とのつながりが、より一層強化されるよう、精一杯、連絡・相談に努めます。



兼任准教授 上原 秀一
専門分野 道徳教育・教育哲学・比較教育学

小中学校の道徳授業の現状に重大な関心を持っています。子どもにとって切実な道徳問題とはどのようなものでしょうか、その問題を子どもが本気で考えるようになるために教師は何をしたらよいのでしょうか、一緒に考えていきたいと思います。



兼任准教授 岡澤 慎一
専門分野 障害児心理学・重複障害教育・特別支援教育

様々な条件や困難を抱えながら生活する人との係わり合いにおいて生じる障害状況からの立ち直りを目指す実践研究(Action research)を行なっています。「教育」のあり方を、みなさんと一緒に根本から問い直し、語り合えることを楽しみにしています。



兼任准教授 瓦井 千尋
専門分野 教育方法・教育行政・学校経営

教職大学院は、学校現場における様々な課題に適切に対応できる、柔軟で幅広い実践力と高い専門性を備えた中核のリーダーを育成することが期待されています。学校現場15年と教育行政23年の経験を踏まえ、皆様の実践研究をお手伝いいたします。



兼任准教授 小原 一馬
専門分野 教育社会学

学校には様々な社会の矛盾が押し込まれています。そうした矛盾をひとつひとつ切り分けていくことで、できることとできないことをはっきりさせていきたいと思います。学校における問題を、社会の問題として捉えなおすことが課題です。



兼任助教 田村 岳充
専門分野 英語教育・授業研究

教職大学院生の願いや思いを大事にしながら、対話的・協同的に学び合っていきます。「児童・生徒をどう教えるか」から、「児童・生徒はどう学んでいるか」を大事にしながら授業改善を目指し、共に学びましょう。



兼任准教授 丸山 剛史
専門分野 学校教育学・教育課程論

授業科目「学級経営の実践と課題」を、教職経験豊かな先生と共同で開講します。事例研究と討議を中心に学級経営の意義、歴史的背景、現状、論点、課題を学びます。そして、学級経営問題解決への見通しをもてるようにします。



兼任講師 廣瀬 隆人
専門分野 成人教育学

学校と家庭・地域の連携を中心に探究していきます。校内研修、教員の資質向上、各種の研修、PTA、学校支援ボランティアなどは全て成人教育の場です。成人教育学の視点から学校を再検討しましょう。

教職大学院へのアクセス

☆峰キャンパス (JR宇都宮駅から2.2km)

JRバス

(祖母井、茂木、清原台団地、清原球場、ベルモール行など)
JR宇都宮駅西口バス乗場③から乗車。約15分。「宇大前」下車

東野バス

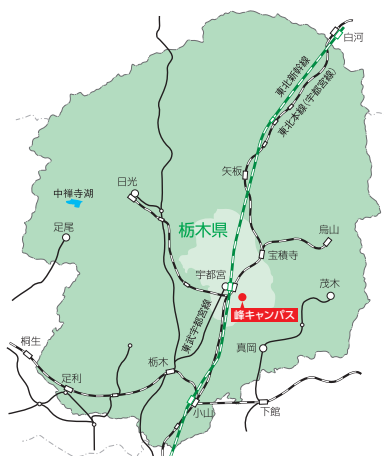
(真岡、益子、海星学院、清原球場、ベルモール行など)
JR宇都宮駅西口バス乗場④から乗車。約15分。「宇大前」下車
東武宇都宮駅バス乗場から乗車。約25分。「宇大前」下車

関東バス

(宇大循環バス左回り)
JR宇都宮駅東口③から乗車。約10分。「宇都宮大学前」下車

タクシー

JR宇都宮駅東口から乗車。約5分。
東武宇都宮駅西口から乗車。約15分。



宇都宮大学 教育学部

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL.028-649-5242 総務係

TEL.028-649-5112 入試課

<http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/koudoka/>